



令和8年度同窓会会長の挨拶

会長 坂柳 恒夫



本年(令和8年)度から愛知教育大学同窓会の会長を務めさせていただきます、坂柳恒夫でございます。日頃より、同窓会の活動に対して多大なるご支援とご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。皆様にご挨拶を申し上げるにあたり、少しばかり私の自己紹介を交えながらお話をさせていただきたいと思います。

私は愛知教育大学の教職科職業指導教室を、昭和50年に卒業しました。その後、愛知教育大学に、非常勤の時期も含めると、45年間、キャリア・ガイダンス、すなわち、キャリア教育・進路指導・職業指導の教員として勤務しました。また、教授と併任でしたが、附属岡崎小学校の校長を経験させていただきました。現在は名誉教授という身に余る称号をいただいておりますが、この愛知教育大学に対する愛情と感謝の思いは、年月を重ねるごとに深まるばかりです。

さて、同窓会という場は、世代を超えた多様な方々が集う貴重な場であります。ここで皆様にお伝えしたい言葉があります。それは「水魚の交わり」という故事成語です。ご存知の方も多いかと思いますが、これは『三国志』において、劉備が諸葛亮との親密な関係を、水と魚に例えて語った言葉に由来しています。魚は水がなくては生きていけないように、互いになくってはならない、極めて親密で深い信頼関係にあることを意味しています。

私は母校である愛知教育大学と同窓生の皆様、そして同窓生同士の繋がりも、まさにこの「水魚の交わり」のような関係であってほしいと願っております。愛知教育大学という豊かな「水」の中で知識を吸収し育った私たちは、卒業後、社会という大海原へと力強く泳ぎ出しました。しかし、どれほど遠くへ進もうとも、同窓会という場が皆様にとって、いつでも安心して帰ってこられる清らかな「水」であり続けたいのです。そして同時に、母校の発展もまた、社会で活躍される皆様という「魚」の存在なくしては成り立ちません。母校と同窓生は、互いを支え合い、高め合う、切っても切れない関係なのです。

変化の激しい現代社会において、教育現場や社会全体が抱える課題は日々複雑化しております。そのような時代だからこそ、愛知教育大学で培った精神と、ここで築いた強固なネットワークが、皆様の人生において大きな推進力となるはずです。同窓会が、皆様にとって、単なる過去を懐かしむ場にとどまらず、新たな知見を得て、互いに活力を与え合えるような素晴らしい場となるよう、私自身、微力ではありますが、会長として誠心誠意、尽力してまいります。

結びになりますが、同窓生皆様のますますのご健勝とご多幸、そして私たちの母校・愛知教育大学の更なる飛躍と発展を心より祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

お知らせ

令和9年度 愛知教育大学同窓会総会について

令和9年度の総会は、令和9年6月5日(土) 午後に予定しています。

詳細は後日、同窓会ホームページ (<http://www.alumni.aichi-edu.ac.jp/>) にてご案内いたします。



同窓の意識

風岡正明

七十歳の半ばを過ぎて、まさか愛教同の会長になろうとは思ってもよらぬことでした。数年前には負担が重なって精神的に不調な時期があっただけに、任期を全う出来るかどうか聊か不安を抱えながらでしたが、なんとか無事に終えることができて安堵しています。野田名誉学長はじめ各地区の役員の皆様、また事務局には何かとお支えをいただきましたこと、この場を借りて厚く感謝申し上げます。

さて、今さらながら同窓というのはどういう意味があるのか考えています。ただ単に同じ場で学んだということだけでなく、いろいろな人との邂逅があり、ともに事を成し遂げてきた体験を経て、そこに同窓の意識も生まれるのだと思います。そんな例を幾つか上げてみましょう。

- 同年には優秀な人がたくさんいて刺激的でした。清水義範という名前をご存じでしょうか。『国語入試問題必勝法』『蕎麦ときしめん』などで吉川英治文学新人賞、中日文化賞などを受賞されました。私とは同年で、学生時代には同人誌を発行し「宮本ムサクルシと佐々木コジキの決闘」などというパロディを書いては人に見せて面白がっていました。
- クラブ活動はもちろん「書道部」に。毎年の夏休みには三河の海老の山中にある禅寺「釣月寺」で一週間の合宿に参加しました。30名以上の大所帯で書道づけの共同生活。忘れられない絆となりました。夕方になって本堂の簷先に坐っていると、全山ひぐらしの声でした。
- 指導教授でたいへんお世話になったのは神谷順次（葵水）先生。先生の書に対する持論は「書を書くということは未見の世界を已見の世界にするという崇高な行為である」。自己の目指す書は初めぼんやりとして、実際に書いてみるとそうではないことに気づく。それを繰り返すことによって徐々に理想の美に近づく、その行為が尊いのだと。
- 先生ではもうお一人。中国哲学の日原利国先生のこと。「書論講読」の講義を思い出します。折に触れお話しされることは「書をやるのは結構なことだ。だがくれぐれも書くだけの人間にはなるな」という戒めの言葉。

以上、幾つか思い出すまま並べましたが、これら大学生活における一つ一つの出会いが私の人生の方向を決める大きな要素となったことは間違いありません。

最後に私の近作を紹介して筆をおきます。言葉は「淋鈴」。書いた年月は令和8年7月。





附属学校園の見直し方針を決定

名誉会長 野 田 敦 敬

本学は7つの附属学校園を有し、その教員は愛知県教育委員会及び名古屋市教育委員会、各市町村の教育長様のご理解をいただき、優秀な先生方を交流人事で派遣いただいています。まず、長年にわたるご支援に深く感謝いたします。

さて、令和7年11月に公表された「国立大学法人等改革基本方針」では、令和10年度から始まる第5期中期目標・中期計画期間に向けて、各附属学校は、各国立大学等のミッションや機能強化の方向性に照らして本来の役割に立ち返り、ステークホルダーとの対話を通じて、設置される附属学校の数、種類、規模等についての整理を行い、必要な見直しを実行することが求められました。

本学の現行の教育学部の教育課程では、幼稚園から高等学校、特別支援学校の教員の養成を行っており、実習の場である附属学校園の種類について減じることはできません。また、小中学校は、名古屋と岡崎に2校ずつありますが、歴史的な経緯により1つにすることは極めて難しい状況です。そこで、子どもの数が激減期を迎えていること、本学の人件費の状況等を考慮し、令和9年度より、小中学校の規模を見直し、学年進行で1学級ずつ減じて参ります。規模は縮小いたしますが、中身を充実させ、将来の日本の学校像を見据えた先導的な実践研究を推進できる学校園にしていきたいと考えています。

文部科学省の国立大学法人評価委員会に設置されたワーキンググループでは、3月～6月にかけて、各国立大学法人と第5期中期目標・中期計画期間のビジョンについて、ヒアリングを行いました。本学は6月にヒアリングを受け、附属学校園の改革方針を提示しました。概ね認められたと判断しましたので、以下の4つの柱からなる見直しを実施していきます。

- 幼小架け橋カリキュラムの実現（名古屋地区）
- 高大接続による教職志望高校生への支援（刈谷地区）
- 子どもの学びの系統性を重視した小中カリキュラムの革新（名古屋・岡崎地区）
- インクルーシブ教育システムの新たな形態を実践（岡崎地区）

以上は、附属学校園の見直しの柱にあたる部分となりますので、今後は、肉付けを大学改革推進委員会に設けられた附属学校成長戦略専門部会や附属学校園とのやりとりを通して行っていきたいと考えています。

例えば、「幼稚園の5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と小学校以降の教育との接続」「高校における『教職コース』の設定」「大学講義体験を高校の卒業単位として認定」「小中学校の学年区切りの弾力的運用」「学校設定教科の開設【小中一貫特例】（未来探究、社会課題解決、防災、金融など）」「小学校、中学校及び特別支援学校が一体となった日常的な『交流及び共同学習』、障害者理解教育を行う日本初の『総合学校』の具体化」などです。

また、中央教育審議会教員養成部会では、附属学校の役割として「現職教員の研修の場」ともあります。もちろん現在もその役割は担っていますが、少子化が大きく進行する中での幼児教育を含めた義務教育の在り方、多様性を包摂する教育のモデルとなる教育課程、教員養成大学の附属学校としての高等学校の在り方などでも、現職教員の研修に貢献したいと考えています。

新部局長の紹介



山口 匡
理事（教育・学生担当）・
副学長



寺田 安孝
理事（連携・附属学校担当）・
副学長



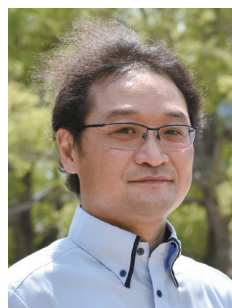
金原 宏
理事（大学経営担当）



江島 徹郎
学系長（教育科学系・
課程長（修士課程））



近藤 裕幸
学系長（人文社会科学系・
課程長（学校教員養成課程））



大鹿 聖公
学系長（自然科学系・
課程長（専門職学位課程））



上原 三十三
学系長（創造科学系・課程長
（教育支援専門職養成課程））

令和7年度卒業式・令和8年度入学祝賀会

令和8年3月23日（月）、本学講堂に卒業生が一堂に会して、令和7年度卒業式が挙行されました。明け方降っていた雨も卒業式開始ごろにはすっかり上がり、とても穏やかな日となりました。卒業式が挙行された講堂前には、花束を持った在校生が祝福に訪れるなど、お祝いムードに包まれていました。その中で、卒業生達は、4年間の大学生活を振り返りながら、友人や後輩たちと記念写真を撮るなど、大学生活最後の思い出づくりをしているようでした。

今回も、同窓会より、卒業を祝して、同窓会名を記した特製の卒業証書用トートバックを記念品として贈呈いたしました。

また、令和8年4月3日（金）、学内の桜も満開となる快晴の良き日に、令和8年度入学式が挙行されました。本年度も、同窓会から入学式を終えた学部と大学院の新生に、昼食用のお弁当を提供いたしました。入学式会場の講堂から、お弁当の配付場所である教育交流館までの間には、本学公式マスコットキャラクターの「愛教ちゃん」や「エディ」が登場したり、音楽系のクラブやサークルのメンバーがお祝いの演奏を奏でたりと、大変な盛り上がりとなりました。新生はその中で、両手に持ちきれないほどのクラブ・サークル案内を受け取りながら、とても嬉しそうに移動していました。中には、少し緊張気味な新生もありましたが、昼食会場に到着後はみな笑顔一杯となり、新しく出会った友人と一緒に昼食をとりながら楽しく語り合い、お互いの連絡先を交換するなどして、これから始まる大学生活について期待を膨らませているようでした。

午後の学生支援ガイダンスまでのわずかな時間ではありましたが、新しき門出を祝う会として喜んでもらえたようでした。



教育交流館での弁当配布



教室での昼食風景

進 路 状 況

令和 7 年度卒業生の進路状況と本年度の就職支援

副学長（キャリア支援・課外活動担当）・附属学校部長 キャリア支援センター長 石 川 恭

本学同窓会の皆様におかれましては、学生の進路指導に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。おかげさまで令和 7 年 3 月の教員養成課程卒業生の教員就職者数（文部科学省発表「令和 7 年 3 月卒業者の大学別就職状況」に基づく正規採用・臨時的任用の人数）が全国第 1 位となりました。なお、今年 3 月の卒業生につきましても、実績からみて全国第 1 位を維持するものと推察しております。

令和 7 年度学校教員養成課程卒業生の進路状況は表 1 のとおりです。教員就職者数は前年度比で 8 人減少しましたが、正規採用者数は 1 人増加しました。これも同窓会の皆様からのご支援のもと、本学 OB・OG の皆様による教員就職対策、とりわけ教員就職特任指導員の先生方による講座、教員採用試験の小論文・面接対策等、きめ細やかで温かなご指導の賜物であると深く感謝申し上げます。

教育支援専門職養成課程卒業生の進路状況は表 2 のとおりです。企業就職者のうち医療・福祉関係が 13 人、教育・学習支援関係が 8 人でした。官公庁への就職者 53 人のうち 47 人が愛知県内自治体の行政職を中心とした地方公務員として就職しています。これらの成果も、同窓会の皆様からのご支援を公務員・企業就職対策に有効に活用させていただいた結果でございます。

今年度もキャリア支援センターを中心に、同窓会の皆様からのご支援にお応えすべく、学校教員養成課程の学生に対しては、教員就職特任指導員による指導の充実を図るとともに、教員採用試験の早期化や、3 年次受験に対応した対策にも注力してまいります。

また、教育支援専門職養成課程の学生および教員以外の職種を希望する学生に対しては、公務員・企業就職ガイダンスをはじめ、キャリアコンサルタントによる就職相談、面接対策講座、グループディスカッション対策講座等を実施し、教育を様々な面から支援する専門的能力を備えた優秀な人材の輩出に努めてまいります。

本学では、学生一人ひとりが自身の特性に気づき、適性を理解したうえで、将来ありたい姿を実現できるように、同窓会の皆様からのご支援・ご協力を賜りながら、今後とも全力でキャリア支援に取り組んでまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

表 1 学校教員養成課程（旧課程を含む）の進路状況（単位：人）

教 員 等	552 (153)	
内 訳	幼稚園・保育所	23 (0)
	小学校	278 (81)
	中学校	153 (38)
	高等学校	75 (28)
	特別支援学校	20 (5)
	その他（幼保こども園など）	3 (1)
企 業	95	12.5%
官 公 庁	51	6.7%
進 学	36	4.7%
その他（※ 2）	29	3.8%
計	763	100.0%

※ 1 教員欄（ ）内は、内数で臨時教員数を示す。

※ 2 その他欄は、企業等（臨時）・官公庁（臨時）、大学学部・研究生・科目等履修・専修学校等の学校入学、海外留学、アルバイト、パート、未定等。

表 2 教育支援専門職養成課程の進路状況（単位：人）

企 業 等	48	36.6%
官 公 庁	53	40.5%
進 学	21	16.0%
その他（※ 2）	9	6.9%
計	131	100.0%

（主な企業・官公庁就職先）

愛知県庁、名古屋市役所、愛知県小中学校事務、名古屋市小中学校事務、国税専門官、国家一般職、名古屋家庭裁判所、愛知労働局、岡崎市役所、刈谷市役所、安城市役所、豊橋市役所、鈴鹿市役所、鳥取県庁、東海財務局、名古屋国税局、名古屋高等裁判所、三重県庁、犬山市役所、江南市役所、東海市役所、豊明市役所、知多市役所、豊田市役所、みよし市役所、高浜市役所、西尾市役所、湖西市役所、松江市役所、愛知中部水道企業団、ジェイテクト、日立ソリューションズ、さなる、日本入試センター、日本郵便、名古屋市社会福祉協議会、刈谷市社会福祉協議会、日本年金機構、名古屋工業大学、名古屋商工会議所

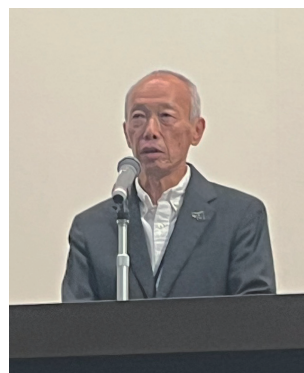
令和8年度 愛知教育大学同窓会総会・講演会



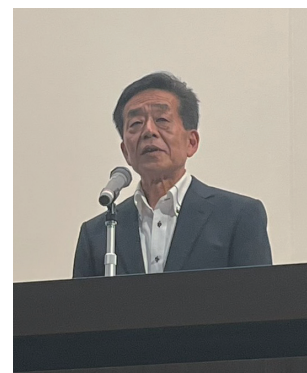
坂柳恒夫 新会長



風岡正明 前会長



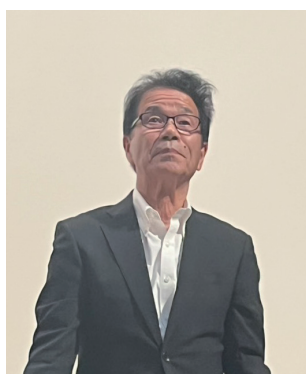
野田敦敬 名誉会長



片山裕之 愛知県教育委員会委員



坂野重法 名古屋地区会会長



山田淳夫 尾張地区会会長



水越光久 三河地区会会長



加藤広也 副会長



加賀幸一 副会長



寺田安孝 評議員

◆ 総会 - 報告ならびに議事

1. 令和7年度事業報告
2. 令和7年度会計報告・監査報告
3. 同窓会会則の改正について
4. 令和8年度役員・会計監査の選出
5. 令和8年度事業計画
6. 令和8年度予算案
7. その他

◆ 講演会

1. 生き抜く力を育むキャリア教育
本学名誉教授 坂柳 恒夫
2. 未来の教育を共創する愛知教育大学
～変化する社会ニーズに応じた高度専門人材の育成～
本学理事 寺田 安孝

令和7年度事業報告

[令和7年(2025年)]

- 4月2日(水) 入学式 於：本学講堂
・入学祝い品(弁当)
- 5月10日(土) 理事会 於：本学次世代教育イノベーション棟
・令和7年度総会について
・広報誌第51号の発行について
- 6月7日(土) 令和7年度総会 於：本学講堂
・令和6年度事業報告 ・令和6年度決算報告及び監査報告
・令和7年度役員選出
・令和7年度事業計画案 ・令和7年度予算案
・本学学長ならびに学長補佐による講演会等
真島聖子「教員養成の動向と本学の在り方」
野田敦敬「本学における地域連携の取組」
- 9月1日(月) 広報誌第51号発行
- 10月11日(土) 理事会 於：本学次世代教育イノベーション棟
・令和7年度総会の振り返り
・同窓会の今後の運営について等

[令和8年(2026年)]

- 3月23日(月) 卒業式 於：本学講堂他
・卒業記念品(トートバッグ)

令和7年度愛知教育大学同窓会一般会計 決算書

収入総額 17,368,603円
支出総額 13,893,833円
差引残高 3,474,770円

収入の部

項 目	予算額	決算額	比較(△減)	備 考
会 費	14,000,000	13,801,350	△ 198,650	
寄附金	0	0	0	
繰越金	3,562,484	3,562,484	0	
預金利息	824	4,769	3,945	
計	17,563,308	17,368,603	△ 194,705	

支出の部

項 目	予算額	決算額	比較(△減)	備 考
事務費	1,310,000	1,306,551	△ 3,449	
1 報労費	1,100,000	1,077,205	△ 22,795	報労費
2 事務費	200,000	195,906	△ 4,094	通信費・事務用品費
3 雑 費	10,000	33,440	23,440	
事業費	11,900,000	12,215,212	315,212	
1 組織強化費	1,900,000	1,886,930	△ 13,070	支部支援 国際交流基金
2 広報費	2,000,000	2,262,766	263,766	広報発行費、ホームページ
3 祝賀関連費	1,200,000	1,423,546	223,546	卒業記念品・入学式昼食
4 就職支援補助費	6,000,000	6,000,880	880	学生の就職支援
5 同窓生交流費	350,000	300,440	△ 49,560	ホームカミングデー
6 雑 費	50,000	0	△ 50,000	
7 大学史資料室運営補助費	50,000	50,440	440	大学史資料室運営
8 教職大学院充実費	250,000	200,440	△ 49,560	
9 名簿関連費	100,000	88,770	△ 11,230	会員情報管理
会議費	460,000	372,070	△ 87,930	
1 総会費	200,000	156,014	△ 43,986	会場費、要項印刷費
2 役員会費	200,000	175,199	△ 24,801	事務局会、理事会
3 その他会議費	60,000	40,857	△ 19,143	顧問会
予備費	3,893,308	0	△ 3,893,308	
1 予備費	3,893,308	0	△ 3,893,308	
計	17,563,308	13,893,833	△ 3,669,475	

詳細に監査の結果、その用途ならびに処理について適正であることを認めます。



令和 8 年度愛知教育大学同窓会役員



名誉会長		野田敦敬				
顧 問		仲井 豊	柴田録治	市野聖治	風岡正明	
		坂野重法	山田淳夫	水越光久		
会 長		坂柳恒夫				
副 会 長		加藤広也	加賀幸一			
事務局長		加納誠司				
事務局次長		松井孝彦	鈴木一成	真島聖子		
理事	尾 張	井本 仁	林 智子			
	名古屋	藤好三知雄	加藤好美			
	三 河	山本武志	小山幾子			
	県 立	安楽孝幸	井上 猛			
	公務員	岡部直樹	鈴木正洋			
	事務局	加藤兼幸	水谷政名			
		清水孝治	加藤博之			
大 学	城所美和	森永理奈	石元恵未	西野雄一郎		
会 計		村松愛梨奈	山口響史	吉田洋和		
会計監査		古川裕章	村上正輝	伊藤孝明	江島徹郎	
評 議 員		理 事：	岩山 勉	山口 匡	寺田安孝	太田知啓
			金原 宏			
		副 学 長：	小塚良孝	梅田恭子	国府華子	石川 恭
			浅井暢宏			
		学 系 長：	江島徹郎	近藤裕幸	大鹿聖公	上原三十三
		附属学校部長：石川 恭				
		学長補佐：	真島聖子	竹川慎哉		



令和 8 年度愛知教育大学同窓会支部長



名 古 屋 地 区

支部 氏 名 勤務先
千 種 加藤好美 千種小
東 藤健之 矢田小
北 板倉淳一 八王子中
西 大橋裕章 城西小
村 古川孝行 正木小
中 筒井眞治 滝川小
和 中村千秋 弥富小
穂 阿部克彦 宮中
瑞 鈴木秀樹 広見小
熱 瀬瀬七紀 大磯小
中 岡本篤史 守山小
港 市野健司 神沢中
南 瀧田光明 藤が丘小
守 瀧田誠 表山小
緑 平井兼幸 教職員育成等
名 野口恵子 附属小
天 中山 第三幼
市役所
附 属
幼 稚 園

尾 張 地 区

瀬 戸 沖本千門 南山中
春日井 垣内秀幸 高座小
小 牧 竹卷伸二 三ッ渕小
尾 張 水野夏子 三郷小
豊 明 水野智之 沓掛小

三 河 地 区

北設楽 金田季也 名倉小
新 城丸山哲丈 鳳来中
豊 橋近藤英治 南陽中
田 原小野敏征 龜山小
豊 蒲川小野敏征 八南小
幸 田須賀繁弥 大塚小
岡 崎山剛 幸田中
みよし 林幸康 常磐南小
豊 田宮本伸一 黒笹小
知 立吉富靖 高岡中
高 浜鈴木剛 来迎寺小
西 尾杉浦康 米津小
安 城山村 育余 桜林小
刈 谷佐野恵子 日高小
碧 南石原竹春 東中
附 県山本泰弘 県教委
属 附清水孝治 附属小
県 立 杉山富美子 くすのき特別支援

県立学校部・大学支部

名 瀬 橋部和典 春日井高等特別支援
尾 西 大西宏幸 一宮特別支援
知 多 間瀬政和 半田東高
西 三 山内登志 岡崎特別支援
河 鈴木玲子 豊橋特別支援
大 学 江島徹郎 愛知教育大学



令和 8 年度事業計画



- 1 会 議 総会：令和 8 年 6 月 6 日（土） 於：本学講堂
理事会：令和 8 年 5 月 9 日（土）、10 月 10 日（土）
於：本学次世代教育イノベーション棟
- 2 事 業 新 1 年生の入会促進、本学学生の就職活動への支援、
入学祝い品、卒業記念品、本学の国際交流支援、
本学の教育・研究・文化振興事業等とのさらなる連携の推進と支援、
地区会ならびに大学・県立・公務員部会の活動支援、年次及び教室・選修同窓会への支援
- 3 広 報 同窓会広報誌第 52 号の発行（9 月）、同窓会ホームページの充実
- 4 その他



令和 8 年度愛知教育大学同窓会一般会計 予算書



収入総額 17,479,539 円
支出総額 17,479,539 円
差引残高 0 円

収入の部

項 目	前年度予算額	本年度予算額	比較（△減）	備 考
会 費	14,000,000	14,000,000	0	会費 一般会員 250 円
寄附金	0	0	0	退職会員 150 円
繰越金	3,562,484	3,474,770	△ 87,714	新入生入会金 10,000 円
預金利息	824	4,769	3,945	
計	17,563,308	17,479,539	△ 83,769	

支出の部

項 目	前年度予算額	本年度予算額	比較（△減）	備 考
事務費	1,310,000	1,400,000	90,000	
1 報労費	1,100,000	1,150,000	50,000	報労費
2 事務費	200,000	200,000	0	通信費・事務用品費
3 雑 費	10,000	50,000	40,000	
事業費	11,900,000	11,500,000	△ 400,000	
1 組織強化費	1,900,000	1,900,000	0	支部支援 国際交流基金
2 広報費	2,000,000	2,600,000	600,000	広報発行費、ホームページ
3 祝賀関連費	1,200,000	1,200,000	0	卒業記念品・入学式昼食
4 就職支援補助費	6,000,000	5,000,000	△ 1,000,000	学生の就職支援
5 同窓生交流費	350,000	350,000	0	ホームカミングデー
6 雑 費	50,000	50,000	0	
7 大学史資料室運営費補助費	50,000	50,000	0	大学史資料室運営
8 教職大学院充実費	250,000	250,000	0	
9 名簿関連費	100,000	100,000	0	会員情報管理
会議費	460,000	460,000	0	
1 総会費	200,000	200,000	0	会場費、要項印刷費
2 役員会費	200,000	200,000	0	事務局会、理事会
3 その他会議費	60,000	60,000	0	顧問会
予備費	3,893,308	4,119,539	226,231	
1 予備費	3,893,308	4,119,539	226,231	
計	17,563,308	17,479,539	△ 83,769	

令和8年度 愛知教育大学同窓会総会での会員の発言

本年度、総会終了後、当日参加された会員から本学同窓会に望む声を自由に発言していただく時間を設けました。発言要旨を掲載させていただきます。

清須市立清洲小学校 山本由佳

音楽科（平成元年卒業）

「教職の魅力を 未来へ届けるために」



私は教職に就いて38年目を迎えます。教員を志したきっかけは、中学生の頃に出会った養護教諭の先生でした。学級になじめない友人たちとともに保健室を訪れ、温かく話を聞いていただいた経験が、教職への憧れに繋がりました。教員として歩む中で、教員の何よりの魅力は「人との出会い」だと感じました。子どもたちと過ごす中で、その成長する姿に何度も感動をもらいました。国語教材「ちいちゃんのかげおくり」の学習で、子どもたちと運動場で実際にかげおくりを行い、成功した瞬間の歓声は今でも忘れられません。また、かつて担任した子どもが今では保護者となって、学校地域ボランティアや学校運営協議会委員として学校を支えている姿を見かけることもあり、人と人とのつながりの尊さを実感しています。

一方で、現在の教育現場は、人口減少や子どもの多様化、ICT・AIの急速な進展などにより、大きな変化の中にあります。しかし、どれほど時代が変わっても、学校は子どもたちが仲間と関わりながら自らの可能性を見だし、未来を切り拓く力を育む場であり続けると考えています。そして教職は、子どもや保護者等との信頼関係の中で成り立つ、人の成長に寄り添うことのできる魅力あふれる仕事です。

愛知教育大学では、キャリア支援センターを中心に充実した支援体制が整えられており、毎年多くの学生が教員として社会へ羽ばたいています。今後も、学生一人一人のキャリア形成や就職支援のさらなる充実を図っていただきたいと思います。また、教員を志す学生がさらに増えることを期待するとともに、同窓会もその一翼を担いながら、未来を担う後輩たちの成長を支えていくことを願っています。

高浜市立高浜中学校 鈴木 剛

社会科哲学教室（平成3年卒業）

「進むべき道を見つけた！」



「教師になりたい」という思いはさほどなく、ただ、自宅から通いやすいという理由で選んだ愛知教育大学。ただ、この選択をしたことで、その後の私の人生を変える志を同じくする仲間との出会いがありました。さらに教育実習を経験し、子どもたちと触れ合い、授業実践に取り組む中で、教育の奥深さと広がりを感じようになりました。そして、今があります。夢を語り合い、議論を交わした仲間たちは、今も教育現場で奮闘しています。距離は離れていても、同じ空の下で子どもたちと向き合っている同志がいる。励まし合い、刺激を与え合える存在がいることは、私にとって何よりの財産であり、心の支えです。

若気の至りで、子どもたちと共に無謀とも思える取組もしました。元旦に学校へ集合してみんなで初日の出を見たり、夜、学校に集合し、流星群を見たり…。今思えば、その時間は、子どもたちと真正面から向き合い、本当の意味での信頼関係を築くことを知るための、かけがえのない時間だったと思います。そして、そんな私を温かく見守り、許容してくれた職場の上司や同僚、保護者の皆さんには、感謝の言葉しかありません。あの頃の失敗や成功体験のすべてが、今の私の教育観の礎となっています。

そして現在、校長として学校づくりを担う中で、「子どもと教職員が共に高め合い、育っていく学校」を目指しています。教育は、学校の中だけで完結するものではありません。子どもを中心としつつ、教職員、保護者、そして地域の人々がつながり合い、手を取り合って未来を共につくっていく営みです。人との出会いとつながりの中で、子どもたちも大人も磨かれていく。そんな機会を創出することこそが、私の役割だと信じています。私も多くの方々から温もりや励ましをいただき、今の私があります。その感謝を胸に、今度は私がまわりの人を助け、支え、「仏様の指」のようにそっと導ける存在として歩んでいきたいと思っています。

名古屋市立緑小学校 原田敏宏

特別支援学校教員養成課程 肢体不自由専攻（平成26年卒業）

「同窓会の仲間と共に成長を」



私が愛知教育大学に望むことは、大きく二点あります。

第一は、「社会人としての教養の育成」です。現場で新規採用教員を迎える中で、授業力や専門知識に加え、挨拶や言葉遣い、報告・連絡・相談といった基本的な教養の重要性を強く実感してきました。実際に、これらが身に付いている教員は同僚や保護者との信頼関係を築きやすく、結果として学級経営の安定にもつながっています。一方で、些細な言動が誤解を招き、連携に支障を来す場面も見えました。こうした経験から、社会人としての基本的な教養は、教育活動の質を支える土台であると感じています。大学段階からビジネスマナーや対人関係力を意識的に身に付ける機会を設けることで、より実践的な力を備えた教員の育成につながると考えます。

第二は、「コミュニティの拡充」です。若手教員と関わる中で、悩みや課題を共有し合える仲間の存在が、成長を大きく支えることを実感しています。近年は生成AIの発達により、個別に業務を進める機会も増えていますが、教育現場では多様な視点が必要であり、他者との協働が欠かせません。大学が地域ごとの採用者同士の交流機会や現任教員との交流の場を企画することで、学生時代から横のつながりを深めることができます。その結果、現場に出てからも支え合える関係の構築や実践的な学びの獲得や不安の軽減にもつながることが期待されます。

これら二点は、教員として長く成長し続けるための重要な基盤であり、大学において一層の充実が図られることを強く期待しております。

愛知県立昭和高等学校（県立学校部） 山口哲也

外国語教室（平成2年卒業）

「同窓会と学生との絆を深める」

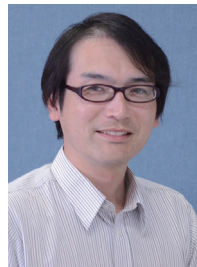


県立高等学校では、様々な要因から募集定員に満たない状況が続き、各学校がそれぞれに魅力ある学校づくりを求められています。さらに社会や時代の要望も踏まえつつ、多様な生徒たちの学びを実現していく必要があります。校種を含めた学校間の垣根を越えて、同じ目的をもち学びあった私たち同窓生が連携して、愛知の教育をリードしていくことを目指していきたいと思っています。

現在の勤務校は今年で創立85年となり、愛知教育大学と同様に同窓会があります。勤務校で定期的に開かれる同窓会にて一緒に話し合う中で気づかされるのは、同窓会が卒業した同窓生のためばかりでなく、現在の母校の現状を確認しつつ、在校生に向けた助言や支援を考える場としての役割を担っていることです。愛知教育大学同窓会も、幅広い年齢の同窓生が母校である大学に集まり、私たち同窓生が学生たちとの出会いや繋がりを確認する場を増やしていき、先輩と後輩として関りを深めていく中で、同窓会の存在を身近に感じてもらえる機会がさらに増えたらよいと思います。

私が赴任した初任校には、愛知教育大学同窓生の米津勇美先生が勤務されており、教育者として基本的なことを教えていただき、大変心強かったことを覚えています。同窓会が学生たちにとって卒業前から身近な存在となり、もし卒業後に同窓生と同じ職場で再び会えたなら、同窓会は一層頼れる存在となると考えます。

高浜市行財政改革グループ 榊原雅彦
総合科学課程 総合理学コース 数理科学選修（平成11年卒業）
「まちの未来を創っていくために」



私が在学中に選修した総合理学コースは、プログラミングなどを学ぶ環境であり、多くの卒業生がシステムエンジニアとして社会で活躍しています。

そのような中、ご縁をいただき、私は地元高浜市の職員となりました。以来、公務員生活26年のうち半分にあたる13年を、地域協働の分野に携わってまいりました。

地域の現場で多くの方々と関わる中で、今も強く心に残っている光景があります。

それは地域の行事において、多くの来賓が紹介される中、ひととき大きな歓声を受ける存在が、校長先生や学校の先生方であったことです。

子どもたちのまなざしの先にいる先生方は、子どもたちの深い信頼と憧れを集める特別な存在であることを実感した瞬間でした。

未来の社会を創るのは、今を生きる子どもたちです。

そして、その成長のそばに寄り添い、導き続ける先生という仕事の重みと尊さを、地域の現場から改めて感じています。

だからこそ私は、先生方が安心して教育に専念できる環境を整えることこそが、行政に携わる者としての責務であると考えています。直接教壇に立つことはなくとも、教育を支える一員として、現場に寄り添い続けていきたいと思っています。

同窓会の一員として、これからも皆様とのつながりを大切にしながら、公務員部会の立場から現役学生への支援、そして教育現場を支える取組みに力を尽くしてまいります。

引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



講堂で開催された総会（令和6年撮影）

平成7年次 卒業30周年記念同窓会

豊田市教育委員会学校教育課 水野美和
（国語教室 平成7年卒業）

去る令和7年9月14日（日）、平成7年に卒業した仲間が一堂に会し、懐かしき学び舎を思い起こす「愛知教育大学平成7年次 卒業30周年記念同窓会」を、サイプレスガーデンホテルにて開催いたしました。卒業から30年という大きな節目を迎えた今回の集いには、多くの同窓生が駆けつけ、互いの再会を喜び合いました。

本会には、大変光栄なことに、愛知教育大学同窓会会長 風岡 正明様、愛知教育大学同窓会名誉会長 愛知教育大学学長 野田 敦敬様、愛知教育大学同窓会 尾張地区会会長 山田 淳夫様、同三河地区会会長 水越 光久様、同名古屋地区会会長 坂野 重法様の5名の皆様に、ご臨席を賜りました。

風岡会長からは、母校と同窓生をつなぐ温かい激励のお言葉を頂戴いたしました。また、野田学長からは、愛知教育大学の現在の教育環境についてお話しいたいただき、学生時代へと思いを馳せる貴重なひと時となりました。さらに、水越会長から、これからの同窓会活動の活性化に向けたメッセージをお寄せいただきました。また、坂野会長には、同窓会を温かく締めくくる結びの御挨拶をいただきました。御来賓の皆様からのお言葉は、私たちにとって大きな励みとなり、愛知教育大学の卒業生であることの誇りを改めて深く胸に刻む機会となりました。

山田会長の乾杯の御発声で始まった懇談会では、学生時代の思い出話に花が咲きました。講義やサークル活動、教育実習での苦労話など、一瞬にして当時の瑞々しい記憶が蘇り、会場は終始笑顔と歓声に包まれました。それぞれが歩んできた道は異なりますが、同じ学び舎で志を共にした仲間の絆は、年月を経ても決して色褪せないものであると強く実感いたしました。最後になりますが、本会の開催にあたり多大なる御協力をいただきました関係者の皆様、および御出席いただきました御来賓の皆様にご心より厚く御礼申し上げます。今回は惜しくも欠席となった皆様とも、いつか元氣にお会いできることを楽しみにしております。



地区・支部・部会だより

親和と共励



知多地区・知多支部
小 嶋 正 嗣
音楽教室
(平成3年卒業)
知多市立岡田小学校

知多市は、歴史ある街並みのある岡田エリア、自然環境豊かな佐布里エリア、マリンスポーツが盛んな新舞子エリアなどがあり、年間を通じてさまざまな魅力を感じることができるまちです。

知多支部では、今年度は2名の新任を迎え、現職会員数は145名となりました。5月1日には、知多支部総会・懇親会が盛大に開催され、会員相互の「親和と共励」をはかることができました。

昨今、令和のサイズ感に合わないものが次々に見直され、急速に変革が進んでいます。不易と流行～「何を変えないか、何を変えるか」を改めて問い直したとき、愛知教育大学同窓会の目的にある「親和と共励」こそ、ずっと守り続けていきたいと思います。親和は、安心感や一体感、受容を、共励は、刺激や挑戦、成長を想像させます。今後も、同窓の絆を大切にしながら、会員がともに歩む、ともに進む知多支部でありたいと願っています。

若き同窓生に寄せて



名古屋地区・緑支部
瀧 田 健 司
生物学教室
(平成2年卒業)
名古屋市立神沢中学校

名古屋市緑区は、桶狭間古戦場や旧東海道の鳴海宿などの史跡を有し、有松・鳴海絞に代表される伝統文化が受け継がれる歴史と文化のまちです。自然と都市機能の調和がとれ、名古屋市内でも人口が多く、発展を続けています。

緑支部は、名古屋市内で最も学校数の多い支部です。小学校28校、中学校12校を擁し、会員数は453人を数えます。

本年度は16人の新規採用者を迎えました。青年部主催の新規採用者の会では、私自身が同窓の先輩方に支えられ、同期の仲間と助け合いながら歩んできた経験をお話ししました。同期・支部・教科など、様々なネットワークで同窓生とのつながりを広げ、深めることが教員人生をより豊かなものにしてくれます。緑支部としても、同窓生の大切な縁を結ぶ場となれるよう、働きかけていこうと思っています。

年次をこえて



三河地区・碧南支部
石 原 竹 春
地理学教室
(平成3年卒業)
碧南市立東中学校

碧南市は、西三河南部に位置し、三河湾・矢作川・天然湖沼である油ヶ淵と、周囲を水に囲まれています。臨海部には工業地帯も発展しており、農業・漁業・工業がバランスよく発展している街です。特にニンジンの生産は県内有数で、給食には毎日必ずどこかに使われています。ブランド品種「へきなん美人」の名を耳にしたことはないでしょうか。

市内には小中学校あわせて12校があり、本年度の現職の支部会員数は159名です。規模の比較的小さな市であることもあり、教職員同士の和が保たれ、連携に恵まれているのが碧南市のよい面と自負しています。5月には総会・懇親会を開催しました。年次にかかわらず、相互の絆を深めあうことができ、とても意義深く楽しい時間をもつことができました。これからも碧南支部のめざす親和共励を大切にし、お互いに支えあえる仲間でありたいと願っています。

同窓生の集う「サロン」の場



県立学校部
杉 本 正 樹
職業指導教室
(平成元年卒業)
愛知県立長久手高等学校

嬉しいことに本年度も多くの後輩の皆さんが県立学校部に入会されました。昨年の県立学校部の会員数は1,200名を超え、高等学校、特別支援学校において、愛知の教育推進のために日々頑張っています。

県立学校部は年間を通して10回程度の研修会を行い、会員相互のノウハウを共有し、教員としての視野を広げ、スキルアップできる「学び」の場を設けています。同時に「親睦」の場として、旧交を温める役割ももっており、県立学校部はまさに同窓生の集う「サロン」の場になっています。

世代を超えた縦のつながり、そして校種を超えた横のつながりをより一層深め、お互いに連携していく機会としての「サロン」の充実をますます図り、今後の子どもの急減期を見据え、我々愛知教育大学の同窓生が果たすべき役割である小中高特の接続を担う教員として求められる資質向上のための研修会に取り組んでいく所存です。

地区・支部・部会だより

会報に寄せて



公務員部会
岡 部 直 樹
教員養成課程社会科史学教室
(昭和63年卒業)
刈谷市副市長

新しく同窓会公務員部会の部会長を仰せつかりました岡部です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

公務員部会は、ゆるやかなネットワークづくりと公務員を目指す学生への支援を活動の中心にし、年1回「現役公務員との座談会」を開催しています。座談会の認知度は、まだまだ低いですが、参加された学生には好評です。ので、引き続き、浸透していけるよう頑張っていきたいと思っています。

私事ですが、この4月から刈谷市の副市長に就任しました。野田学長へ就任の挨拶に伺った際には、大変喜んでいただき、温かい激励の言葉をいただきました。自治体に勤務する私たちは、日々の仕事の中で、母校と関わるが多くあります。これまでも、「愛教大の卒業生です。」とお伝えすると、先生等から温かい励ましをいただくことが多くあり、そのたびに卒業生が頑張っていることを喜んでいただける大学の空気を感じます。

教員養成系の大学ではありますが、教育支援を含め公務員を目指す学生も少なからずいますので、卒業生としてお役に立てればと思っています。そして、同じ学び舎を卒業し公務員として頑張る仲間が、それぞれの職場で活躍できるよう、ネットワークを広げ、情報交換をしながら、私たちの活動がその一助になればと思っています。



創基150周年記念植樹ヒガンザクラの現在（令和8年7月）

平成18年次卒業20周年記念同窓会

犬山市立東部中学校 小 澤 裕 行・名古屋市立中島小学校 原 昇 平・豊田市立美山小学校 杉 江 大 亮
(初等社会・中等技術・中等数学 平成18年卒業)

令和7年11月9日（日）、愛知教育大学平成18年次20周年記念同窓会が金山のサイプレスガーデンホテルにて開催されました。当日は来賓7名をお迎えし、総勢73名の出席のもと、盛大に会を催すことができました。

開会にあたり、発起人代表の原昇平からの挨拶ののち、同窓会名誉会長の野田敦敬様からは、近年の大学の変化について触れるとともに、平成17年度に教授に就任され、初めて指導に携わった学年の一つが私たち平成18年次であることに言及され、本日を感じ深く迎えているとのご挨拶を頂戴しました。

さらに、名古屋地区会会長の坂野重法様からは、比叡山延暦寺の「不滅の法燈」の逸話をもとに、一人一人が気づき行動し続けることの大切さと、愛知教育大学の伝統と誇りを受け継ぐ意義についてお話をいただきました。

三河地区会会長の水越光久様は、島崎藤村の「人の世に三智あり」という言葉を引き、「学び」「人との関わり」「体験」によって培われる三つの智について触れ、同窓会がそれらを深め合う場であることを示されました。そのご発声により乾杯が行われ、懇親のひとときが始まりました。会場では再会を喜ぶ声があちこちで聞かれ、思い出話や近況報告に花が咲きました。20年の歩みの中でそれぞれが積み重ねてきた経験が語られ、新たなつながりも生まれるなど、終始温かな雰囲気に包まれました。

終盤には、尾張地区会会長の山田淳夫様より、20年の経験を大切にしながら、今後の生き方を主体的に考えていくことの大切さについてお言葉をいただき、会は締めくくられました。

開催にあたり、ご臨席を賜りました来賓の皆様、ならびに運営にご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、ご参加いただいた同窓生の皆様に心より御礼申し上げます。



川上昭吾先生 瑞宝中綬章受章祝賀会

祝賀会世話人代表 石 井 鈴 一
(理科 生物教室 昭和53年卒業)

2026年3月21日、知立の「岐阜屋」にて、愛知教育大学でご指導を賜りました恩師である川上昭吾先生の叙勲をお祝いする会を盛大に開催いたしました。川上先生におかれましては、2025年11月12日に瑞宝中綬章の榮に浴されました。当日は、川上研究室の同門生をはじめとする多数の方々が集い、恩師の榮譽をともしにお祝いしました。開会后、同じく川上研究室の同門である野田敦敬愛知教育大学学長より、代表してお祝いの言葉を頂戴し、先生の長年にわたるご功績への敬意と温かいメッセージが述べられました。また、川上研究室同門会一同からのお祝いの胡蝶蘭は、先生への感謝の気持ちを込めて事前にお届けいたしました。

その後、川上先生からのご挨拶がありました。ご挨拶の中では、皇居豊明殿にて天皇陛下からお言葉を賜り、北溜にて記念撮影を行われたという授与式当日の厳かな様子についてお話しいただきました。また、先生が情熱を注いでこられた「理科教育学の3本柱」である「教育」「研究」「社会との関わり」や、大学運営に関する当時の熱い思いを拝聴いたしました。特に、「教員は修士」をめざして教員の資質・能力と地位向上にご尽力されたことや、学生とともに進める研究を通して「新しい学問を創造」されてきたこと、さらにはユネスコ国際会議の開催など国際的な理科教育の発展に寄与されたことなど、その圧倒的な実績に改めて感銘を受けました。著書6冊、論文141編、執筆活動158編にのぼるご研究の足跡は、門下生にとっての誇りであり、大いなる指針です。

乾杯後のご歓談では、川上先生と奥様の鈴江様を囲み、懐かしい学生時代の思い出話や近況報告に花が咲きました。先生の温かいお人柄に触れながら、和やかに笑顔の絶えない時間となりました。

この祝賀会は、先生の叙勲をお祝いするとともに、同門の絆を再確認する素晴らしい機会となりました。川上昭吾先生の益々のご健勝とご多幸を、同門生一同、心よりお祈り申し上げます。



同窓会会則の改正について

令和7年10月11日（土）ならびに令和8年5月9日（土）理事会にて、会則第8条2項に基づき、同窓会会則の改正についてご議論いただきました。そして、そこで出された意見を基に修正し、同第8条1項（1）に基づき、総会に提案しました。

総会にて承認された主要な改正は、以下の通りです。

1. 住所の明記

近年、金融機関において、口座の管理が厳格化されており、規約での住所の明記が求められている。そのため、同窓会則第1条を、以下のように改正する。

現：第1条（名称）

本会は、愛知教育大学同窓会と称する。

新：第1条（名称）

本会は、愛知教育大学同窓会と称し、事務所を愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1におく。

2. 役員

2.1. 大学に所属する理事

大学に所属する理事がだんだんと増えてきている。地区会等との理事のバランスを欠くとの指摘がある。

そのため、

（1）理事の最大人数を、61名から、従来の常務理事の最大人数31名に減ずる。

（2）常務理事は廃止する。

2.2. 役員の選出方法

これまで、会長、副会長、事務局長、事務局次長、常務理事、理事、会計、会計監査は、理事会の推薦により選出することとしているが、別途内規を定めて、これに記載する。なお会長については、すでに令和6年度5月の理事会において、内規を定めており、特に変更しない。

2.3. 会計監査

会計監査の任免は会則の2か所に分散して出てくるので、これを1つにまとめる。なお、会計の透明性を高めるため、会計監査を独立したものとし、役員とはしない（これまででも会計監査は理事会には参加していない）。

同窓会幹事グループ代表 平 田 茂 樹
(職業指導教室 昭和59年卒業)

令和8年2月21日(土)、「(愛知教育大学名誉教授)竹内登規夫先生 受章祝賀会」を開催しました。竹内先生が令和7年秋の叙勲において【瑞宝章 中綬章】を受章されたというニュースを受け、同窓生数名が幹事グループとなってこの会を計画しました。

私達の同窓生は、平成30年までは2年に1回の頻度で学習会・懇親会を開催していましたが、コロナ禍によって会が途絶えてしまい、再開の目途が立たない状況でした。そんな中、竹内先生の受章が会の再開のきっかけを作ってくれたのです。そこで、「竹内先生の受章をお祝いしよう。」というのは勿論のこと、「久しぶりに同窓生が集い、改めて繋がる機会を作ろう。」という趣旨で開催することにしました。幹事グループ以外の年次の同窓生への声かけが難しかったのですが、当日は、昭和34年卒業の先輩から大学在籍中の皆さんという幅広い年代の同窓生約70人が集うことができました。また、野田敦敬学長がご多用の中ご参加くださり、温かいお祝いのお言葉を述べてくださいました。

竹内先生は、受章スピーチの中で、文化の日の受章の電話連絡の様子、授章式の様子を話されました。叙勲の流れを知らない私たちにとって興味深い情報ではありましたが、それ以上に、先生の数十年前と変わらない淡々としながらもゾクゾクするような話しぶりが全員の心に染みていたようでした。また、奥様にもお話をさせていただきました。奥様から言えるご家庭での竹内先生の様子について、竹内先生が少年のように照れ笑いしたり同窓生から温かい笑みがこぼれたりする場面もありました。

スピーチの後の懇談の時間はとても盛り上がり楽しいものとなりました。竹内先生ご夫妻を囲みながら、同年次の仲間が昔を懐かしんで談笑するだけでなく、大学時代に重なりがなかった年次の先輩や後輩と繋がる機会ともなりました。近い将来、Home Coming Dayなどの機会を利用してより多くの同窓生が集うことのできる会を計画したいと考えています。



叢書『教職の魅力共創』のご案内

本学では、多様なステークホルダーが「教職の魅力」を共に高め、創り、共有していけるような場として、叢書を刊行しています。多様な教職の面白さや魅力を伝える下記シリーズには、本学同窓生も執筆されています。生協やAmazonで購入が可能ですので、ぜひ手に取ってください。

また、執筆へのご協力も、よろしくお願いいたします。

[2026年刊行]

「教職の魅力共創」⑨社会共創編 新たな学び・学校のかたち (5)

「教職の魅力共創」⑩教科領域編 ことばがひろく世界を共創する

[2025年刊行]

「教職の魅力共創」⑦社会共創編 新たな学び・学校のかたち (4)

「教職の魅力共創」⑧教科領域編 新しい価値を創造する情報教育

[2024年刊行]

「教職の魅力共創」⑤社会共創編 新たな学び・学校のかたち (3)

「教職の魅力共創」⑥教科領域編 幼児教育から小学校教育の魅力共創

[2023年刊行]

「教職の魅力共創」③社会共創編 新たな学び・学校のかたち (2)

「教職の魅力共創」④教科領域編 写真でひと言ー体育の魅力共創ー

[2022年刊行]

「教職の魅力共創」①社会共創編 新たな学び・学校のかたち

「教職の魅力共創」②教科領域編 未来の社会を共に創る社会科授業



会 員 の 声

「花」から育む豊かな心



鬼 頭 知 生
小学校教員養成課程 音楽教室
(平成4年卒業)
津島市立高台寺小学校

桜、藤、芝桜、睡蓮、紫陽花…。本校では、季節の移り変わりを花で感じることができます。職員室の窓から見える花々の向こうに、元気に校庭を走り回っている子どもたちの姿を見ると心が温かくなります。

私は、花を通して季節の移り変わりを味わうことが楽しみの一つであり、全校朝会で花に関する話をすることもあります。以前、紫陽花の話をした際には、休み時間に実物を見に行く子どもたちが多くおり、興味や関心が高まったことをとても嬉しく思いました。

近頃は、気候変動で日本の四季を感じづらいときもありますが、日本の四季のよさはまだまだたくさんあります。子どもたちには、移り変わる花々の様子を五感で受け止め、その時季にしか味わえない魅力を感じてほしいと願っています。私自身も、日々の生活の中で自然に心を寄せるゆとりを忘れず、子どもたちと共に豊かな感性を育んでいきたいと思います。

「恩送り」の心を胸に



浅 野 陽 平
初等教育教員養成課程国語科
(平成18年卒業)
一宮市立今伊勢中学校

教員生活をスタートさせてから20年目となりました。授業準備や学級経営に試行錯誤を繰り返し、上手いかわず悩むこともたくさんありました。そんな私を支えてくれたのは、諸先輩方のアドバイスや温かい励ましの言葉でした。特に初めて赴任した中学校では、「絶対にあきらめない」「だれも見捨てない」ことを、時には生徒とぶつかり合いながら、チーム・組織として関わっていくことの大切さを深く学ぶことができました。

いつの間にか、校務主任として3年目を迎え、職場には後輩たちが多くなりました。そこで心がけるようになったのは、「恩返し」ではなく「恩送り」です。先輩方に育てていただいたように、今度は私が自身の経験や失敗談を伝えることで後輩たちの力になりたいです。これからも学び続ける姿勢を大切に、子どもたちや仲間と共に成長を続けます。

教えることで、教えられる



馬 場 絢 子
初等教育教員養成課程家庭専修
(令和5年卒業)
犬山市立東小学校

教員になって、4年目を迎えました。経験を重ねる中で、以前よりできるようになったこともあります。それ以上に教育の難しさを感じる場面が増えたように思います。子どもたちは一人一人考え方や感じ方が異なり、「この声かけでよかったのか」「本当に子どもたちのためになっているのか」と悩むことは今でも少なくありません。授業や学級経営が思うようにいかず、反省する日もあります。しかし、その失敗を振り返るたびに、次はこうしてみようという前向きな気持ちにさせてもらっています。教える立場でありながら、実は子どもたちから教えられることの方が多いのかもしれません。また、経験を積めば悩みが少なくなると思っていたのですが、そうではありません。それでも、子どもたちと向き合い、試行錯誤を繰り返す毎日が、自分を少しずつ成長させてくれていると感じています。これからも、一人一人に寄り添う姿勢を大切に、子どもたちとともに学び、成長し続けられる教員でありたいと思います。

ありがとうございました。



古 川 裕 章
化学教室
(平成元年卒業)
名古屋市立ほのか小学校

6月、久しぶりに大学を訪れました。一緒に向かったのは化学教室の同級生でした。還暦を迎えるこの夏、まさか、19歳の頃と全く同じように、彼を助手席に乗せて大学に向かうことがあるとは想像もしていませんでした。さらに、19歳の頃と同じ店で同じ友達と同じとんかつ定食の昼食を共にしました。当時と全く変わらぬ様子で彼らと一緒にいることが、不思議で仕方ありませんでした。なんて幸せなことだろうと思いました。

同窓会の組織があり、これまでに年次や支部、教科等々、さまざまな場面で一緒に過ごした仲間、先輩も後輩もたくさんいて、おかげで私の人生はどれほど豊かなものになったのだろう、そう思うと感謝の言葉しかありません。同窓会とこれまで出会った皆さんにあらためて、「ありがとうございました。」

会 員 の 声

「出会い」に支えられて



秋 山 彩 季
初等教育教員養成課程 教育科学選修
(平成20年卒業)
名古屋市立稲葉地小学校

教員としての歩みは、多くの方との出会いに支えられて成り立ってきたのだと実感しています。子どもへの関わりに悩む中で、「大丈夫。必ず伝わっているよ。」と声を掛けてくれた同僚の一言に、何度も背中を押されました。育児休業後に復帰した際には、コロナ禍で大きく変化した教育現場に戸惑うばかりでしたが、「先生ならすぐに慣れるよ。」と温かく励ましてくれた先生方の存在に救われました。異動のたびに別れの寂しさはありますが、それ以上にかけがえのない出会いがあります。校種や勤務地が変わっても声を掛け続けてくださる先輩の存在にも支えられ、人とのつながりの大切さをあらためて感じています。学年主任として後輩たちと学年をつくり上げる立場となった今、責任の重さを感じるとともに、それは私にとって新たな学びの機会ともなっています。これからは後輩と向き合いながら共に悩み、少しでも彼らの支えとなれる存在でありたいです。

「叱る」ということ



眞 谷 優 吾
初等教育保健体育科専修
(令和5年卒業)
名古屋市立御器所小学校

教員という仕事をしていると、子どもたちに「叱る」場面が多くあります。しかし、今の時代では、「叱る」ときの言葉の使い方にとっても気を使わなければなりません。その面倒さ故に、「叱る」ということをなるべく避けている方もいるのではないのでしょうか。

自分の過去を振り返ると、大人に叱られた経験は多くありました。しかし、今思うとその経験が自分を成長させてくれました。叱ってくれた人は、自分のことを大事に思ってくれていたのだと思います。自分を叱ってくれた人には「感謝」の気持ちでいっぱいです。

これから自分と関わる子どもたちが立派な大人になれるように、あの先生にあのとき叱られてよかったなと思ってもらえるように、子どもたちと本気で向き合って、「叱る」ことも避けずに指導をしていけたらと思っています。もちろん、「叱る」より「褒める」ことがいっぱいの学級を作ることが一番の目標です！

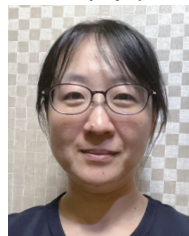
思い出の授業



小 野 敏 征
小学校教員養成課程 理科教室
(平成4年卒業)
田原市立亀山小学校

自分が小学生の時、担任の先生が理科の授業で、近くの工事現場へ連れて行ってくれました。とても暑い日だったのですが、その工事現場には大きなむき出しの崖「露頭」があり、きれいな層を見て「ケーキみたいだな～」と思ったのを覚えています。でも、実はそのことよりも、帰りの出来事を強烈に覚えています。担任の先生が、「一列に並べ！」と、自動販売機の前に僕たちを並べました。そして、100円玉を入れて、「どれがいい？」と一人ひとりに聞いてくれました。僕たちのクラスは40人以上もいるのに、全員にジュースをおごってくれる先生は、大金持ちだと思いました。そして、「このことは内緒だよ。」と言われ、僕はその約束をずっと守ってきました。理科教師となって36年。確かに理科が好きですが、僕は「教師になったら大金持ちになれる。」と信じてこの仕事に就いたのかもしれない。いつまでも忘れない、思い出の授業です。

「何のために」を考えて



日比野 香 代
中等教育教員養成課程 音楽専攻
(平成17年卒業)
豊田市立山之手小学校

とにかく目の前の課題をこなす学生時代でした。教員になっても変わらなかったのが、当然、授業や指導はうまくいきませんでした。初任の夏休み、授業を考える際に「子どもが本当に学びたいと思うのか、その問いで子どもは何を考えるのか」を大切にしよう教えていただきました。「子どものために」を課題とすることで自分のやるべきことが広がりました。

それから授業では、子どもが学びたいと思えるような導入や手立てを工夫したり、子ども同士が考えを伝え合い学び合うことを大切にしたりしました。年月を重ね、児童にも「何のために学ぶのか」「何のために行動するのか」を問いかけるようにしたことで、目的意識をもって行動できる姿が増えていきました。

今後も、変化する社会に対応しながら学び続け、一人一人の子どもに丁寧に関わり添っていきたいと思います。

会 員 の 声

やりがい



村 田 真 一
教育学部初等社会・哲学
(令和6年卒業)
豊川市立御津南部小学校

愛知教育大学を卒業して、地元を離れ、豊川で小学校の担任をしています。現場での毎日は試行錯誤の連続ですが、子どもたちの成長を間近で見られることは、教師としてのやりがいだと実感しています。特に去年、社会科で実践した「青い目の人形」の授業では、歴史的な背景から、平和を願う先人の思いを真剣に考え、歴史を自分なりに捉え直そうとする子どもたちの姿に胸が熱くなりました。また、回を重ねるごとに授業後の感想の量が目に見えて増え、短期間でこれほど伸びるのかと圧倒されました。3年目で仕事に少しずつ「余裕」がもてるようになった今、これまでの経験を自信に変えながらも、初心を忘れず、ひとりひとりの子どもたちと真剣に向き合っていきたいです。子どもたちが安心して挑戦できる学級、毎日学校に来るのが楽しみになる学級を目指し、子どもたちに寄り添い、共に歩んでいきたいと思えます。

笑顔っていいな



竹之内 賢 二
特別支援学校教員養成課程
(平成19年卒業)
愛知県立春日台特別支援学校

私は、この4月から春日台特別支援学校の仲間入りをしました。転勤でドキドキした私の心を和らげてくれたのは、たくさんの「笑顔」でした。まずは、先生方からの笑顔での出迎え。そして、なんと言っても、子どもたちが登校してからのにぎやかな学校の様子。できたことに喜ぶ生徒、給食をおいしそうに食べる生徒、情緒が乱れても先生方と時間をかけて立ち直り笑顔に戻る生徒など。たくさんの笑い声や笑顔のおかげで、いつのまにか私の不安も薄まりました。また、同時に、教員のやりがいについて再認識することができました。

令和8年度も数か月が終わりましたが、現在もあたふたする日々は続いております。そんなときこそデスクワークをほんの少し後回しにし、子どもたちや先生たちと触れ合いながら私自身が元気をもらって楽しく過ごしています！これからも、みんなが安心できるような「笑顔溢れる学校」を目指して取り組んでいきたいです。

0を1にする努力を惜しまない。



佐 藤 圭 一
小学校教員養成数学科
(平成12年卒業)
刈谷市議事課

皆さん、0と1の差は大きいですか。小さいですか。私は大学時代にソフトボール部に所属し、卒業までに3部から1部リーグまで経験し、毎回新たなレベルでプレーしました。その後、就職氷河期世代の1人として、縁あって刈谷市職員となり、これまで税や財政、福祉などの部署に在籍し、様々な業務課題に対し、自分なりの答を出してきました。市役所は部署が変わるたびに0から知識を習得する必要があります。自分の知識、経験を0から1にすることは大きな苦勞を伴いますが、「知っている」ことの価値は非常に大きいと思います。現役学生の皆さん、0と1の違いはとても大きいものです。今しかできないことや今しか読めない本など、自身の人生における「知っている」を1つでも増やしてください。それが将来の夢を実現するための武器になり、お守りにもなるはずです。今後も同窓会の一員として、会の発展に寄与できたらと考えていますので、よろしくお願いします。



【教育未来館】

同窓会から補助をいただいている「学生の就職支援活動」が、ここで行われています。

令和7年度実施事業の概要報告2 卒業記念品

令和3年度から、同窓会として卒業する皆様をお祝いするという趣旨によって行われていた卒業を祝う会を、飲食を伴うことを理由に中止としました。しかし、その趣旨を生かしたいと考え、卒業記念品としてトートバックを製作して配布してきました。

令和7年度も、同窓会広報にてデザインの募集を行いました。そして、応募作品の中から、教育学部 学校教員養成 義務教育専攻 教科指導系 図画工作・美術専修の舟橋柚季さんの案を採用しました。本学のシンボルマークであるカキツバタをモチーフとしたデザインで、卒業生から良い評価が多数寄せられました。

今回も卒業の皆様からは好評であったことを受け、令和8年度もトートバックのデザインを募集することとしました。



教員人材銀行からのご案内

教員人材銀行とは、愛知県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において教諭、養護教諭、栄養教諭等の講師として勤務を希望する方を学校や教育委員会に紹介する事業です。令和8年度よりウェブ上で講師希望者と学校等の要望をマッチングする「教員人材銀行ウェブシステム」を導入しました。

講師希望者はご自身のスマートフォンやタブレットでのアカウント登録をすると求人情報の閲覧、応募等ができます。

また、学校等につきましては管理職限定にて登録可能となります。ウェブシステムの導入に伴い財団での閲覧サービスは廃止されました。詳しくは教員人材銀行ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
教育振興課 教員人材銀行
〒460-0007
名古屋市中区新栄一丁目49番10号
愛知県教育会館2階
TEL (052)-242-1588 FAX (052)-241-9103
ホームページ [教員人材銀行](#) で検索できます。

事務局だより

卒業記念トートバックのデザイン募集について

同窓会では、卒業式当日に卒業記念トートバックをすべての卒業生・修了生に配布しています。ついては、そのトートバックのデザインを、広く同窓会の皆様（同窓会員・賛助会員・準会員の個人またはグループ）から募集します。

詳細は以下の応募フォームをご覧ください。なお応募にはGoogleのアカウントが必要です。

<https://forms.gle/jeMGRv8nKH95ugJeA>

締め切りは令和9年1月1日（金）です。厳選な審査の上、令和9年2月頃に採用を決定し、同窓会ホームページにて公表します。また同窓会広報誌第53号（令和9年9月発行予定）にも掲載します。採用者には薄謝を進呈いたします。

「同窓生名簿」について

最新の「同窓生名簿」は令和5年11月に発行しました。すでに販売は終了しています。

・名簿は会員以外に譲渡・貸与しないでください。
（名簿業者等への譲渡・貸与はおやめください）

「同窓生名簿」の発行及び管理は、㈱サルトに委託しております。（それ以外の業者と同窓会は一切関係ありません）

「会員の声」の原稿募集

掲載をご希望の方は、25字×16行（400字）で顔写真を添えてください。締め切りは毎年4月末日です。

11th

Aichi University of Education

Home Coming Day

2026.11.14 Sat

科学・ものづくりフェスタと同日開催

※理科・技術教育講座教員等、本学教員の
出展多数！詳細はHPをご確認ください。

ウェルカムセレモニー

時間▶12:45~13:45

場所▶本部棟3階第一会議室

内容▶

- ・歓迎演奏(吹奏楽団)
- ・学生広報スタッフ活動報告
- ・未来共創プラン取組紹介
- ・学長講演「大学近況報告」

参加者に 記念品プレゼント！

愛教大ニ物産展

時間▶11:15~14:15

場所▶本部棟3階第三・五会議室

内容▶

- 美術教育講座教員・学生・附属特別支援学校生徒・生協による販売や展示
- 販売▶創作和菓子・手芸品・作業製品
- イラスト・大学オリジナルグッズ等
- 展示▶ガラス・彫刻(美術教育講座)
- 写真

附属図書館自由見学

時間▶11:00~17:00



食堂・売店・キッチンカー

(食堂)

時間▶11:00~13:00

場所▶第一福利施設2階食堂(HANS)

(売店)

時間▶11:00~14:30

場所▶第一福利施設1階売店(eM)

(キッチンカー)

時間▶10:00~16:00

場所▶AUEスクエア

学びの交流会

要事前申込

参加者に 記念品プレゼント！(※一部教科は別日に開催します)

① 生活科教育

生活科・総合、LES愛知合同開催

- 開催場所：次世代教育イノベーション棟
- テーマ：今、あらためて個性化教育を考える(仮)
- プログラム：14:15-14:20 開会・趣旨説明
- 14:20-15:20 第1部 教職大学院生による生活科・総合的な学習の時間研究発表
- 15:20-15:30 休憩
- 15:30-16:50 第2部 個性化教育をテーマとしたシンポジウム
- 16:50-17:00 閉会
- 対象：修了生、在学生、現職教員、教育関係者

※11/7(土)開催

② 特別支援教育

愛知特別支援教育ネットワーク

- 開催場所：特別支援教育棟 225室(オンライン同時開催)
- テーマ：特別支援教育の未来を共に創る ～教職大学院の魅力と学び続ける教師とは～
- プログラム：14:00-15:00 講演会「特別支援教育における大学院で学ぶ意義」
- 上越教育大学 助教 尾原 健太(本学卒業生)
- 15:15-16:30 特別支援教育なんでも座談会(シンポジウム)
- 「特別支援教育が目指す学校教育の未来像～」
- 対象：本学在学生、卒業生、特別支援教育に興味・関心のある方

③ 幼児教育

幼児教育講座交流会

- 開催場所：第二共通棟 421室
- テーマ：名古屋立幼稚園園長先生との対話
- 「子どもって、保育って、こんなに魅力的でおもしろい！」
- プログラム：10:30-10:35 講演者紹介
- 10:35-11:50 講演者との対話
- 11:50-12:00 質疑応答
- 対象：幼児教育専攻学生、幼児教育専攻(選修)卒業生、幼児教育に関心がある方

④ 養護教育

養護教育講座交流会

- 開催場所：養護・幼児棟 共同演習室Ⅰ(159)
- テーマ：養護教諭に関わる現代的課題
- プログラム：13:00-13:45 挨拶
- 13:45-14:50 教職大学院修了生による研究紹介
- 14:50-14:55 今年度退職教員による講演会
- 14:50-15:00 意見交換
- 対象：養護教育講座を卒業した方、養護教諭・学校保健に興味のある方

※12/8(日)開催
(申込バッチ11/24(火))

⑤ 心理

愛知教育大学 心理臨床の集い

- 開催場所：教育未来館 2A講義室
- テーマ：米村高穂先生(医療法人純和会 矢作川病院/愛知県SC)
- プログラム：13:45-15:00 講演者紹介
- 13:45-15:15 講師による講演
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-16:00 質疑応答
- 対象：本学心理コースの卒業生・修了生

※11/15(日)開催

⑥ 福祉

福祉コースのつどい

- 開催場所：教育未来館 多目的ホール
- テーマ：福祉コースの4年をめぐる
- プログラム：14:15-14:30 ご挨拶と教員紹介
- 14:30-15:00 福祉講座の4年間(動画紹介&在校生の語り)
- 15:00-16:00 交流会(キッズスペースあり)
- 16:00-16:10 記念撮影
- 対象：福祉コース在校生および卒業生

⑦ 教育ガバナンス

教育ガバナンス研究会

- 開催場所：教育未来館 多目的ホール
- テーマ：子どもが主役の学校・地域づくりにおける教育支援専門職の役割と展望
- プログラム：13:30-13:45 開会行事
- 13:45-15:00 シンポジウム・実践報告
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-16:15 意見交換・グループ協議
- 16:15-16:30 閉会行事
- 対象：教育ガバナンス・ガバナンス研究卒業生・在学生、学校事務職員、教育行政に携わる自治体職員、社会教育士に興味のある方

※11/21(土)開催

⑧ 教職大学院

フォローアップ交流会兼教職大学院FD

- 開催場所：次世代教育イノベーション棟
- テーマ：修了生と語り合う、本学教職大学院の今後(仮)
- プログラム：10:30-12:00 開会あいさつ
- 概要説明
- 意見交換・全体交流
- 閉会あいさつ(課程長)
- 対象：修了生、連携協力教員、在学生、本学教員、教育関係者

⑨ 国語教育

コモンズ・ランガージュ

- 開催場所：第二共通棟 411室(オンライン同時開催)
- テーマ：遊び倒せ、説明文一子どもも教師も楽しむために～
- プログラム：14:15-14:30 開会挨拶・趣旨説明
- 14:30-15:15 現職教員による実践報告
- 名古屋立八社小学校 岡田真奈
- 西宮市立上原小学校 瀧口兼典
- 三重大学附属小学校 片山有梨世
- 15:25-16:50 協議
- 16:50-17:00 閉会挨拶・事務連絡
- 対象：国語教育に興味のある方

⑩ 社会科教育

教職大学院 社会科教育講座 M1テーマ発表会

- 開催場所：教育・人文棟 202・209室
- テーマ：教職大学院生による研究テーマ紹介
- プログラム：13:20-13:30 開会のあいさつ
- 13:30-16:10 発表会(分科会形式)
- 16:15-16:30 全体会
- 対象：社会科教育に興味のある方

※11/22(日)開催

⑪ 外国語教育

外国語教育講座 学びの交流会

- 開催場所：教育未来館 3C講義室
- テーマ：「小中高の英語教育、生徒の気持ちを考える」
- プログラム：14:00-14:05 開会挨拶、講師 大塚章夫先生の紹介
- 14:05-14:50 大塚章夫先生講演会
- 14:50-15:20 質疑応答、ディスカッション
- 15:20-15:30 閉会挨拶
- 対象：英語選修・専攻の卒業生、英語専修の在学生、英語教育・外国語教育に関心のある方

⑫ 数学教育

愛知教育大学数学教育学会

- 開催場所：自然科学棟 534・562・544室
- テーマ：第57回研究発表会
- プログラム：12:30-13:00 受付
- 13:00-15:10 研究発表：3会場×3発表(予定)
- 15:15-16:15 講演：水谷尚人先生(国立教育政策研究所)
- 16:15-16:30 総会
- 対象：数学教育に興味・関心がある方

※12/12(土)開催
(申込バッチ11/24(火))

⑬ 情報教育

情報教育・教育の情報化 学びの交流会

- 開催場所：教育交流館 第4P Cルーム(オンライン同時開催)
- テーマ：情報教育・教育の情報化についての情報提供と意見交換
- プログラム：14:15-16:30 情報に関する研究発表と意見交換
- 対象：情報科学・初等情報・中等情報・ICT活用支援専修を卒業した方、大学院コースを修了した方、情報教育や教育の情報化に興味のある方

⑭ 音楽教育

卒業生と在学生による演奏交流と聴き合い会♪

- 開催場所：音楽棟 演奏室
- テーマ：卒業生と学部生がお互いに演奏を披露し合い、交流を深めます
- プログラム：14:00-18:00
- 卒業生・大学院修了生・学部生・大学院生がお互いに演奏を披露し、聴き合い、そして交流を深めます。演奏を希望される方は、ソロ又はアンサンブル(少人数の合唱・合奏も含む)で、原則1枠15分以内とし、事前申込(10/5(月)より先着順)が必要です。それ以外の方は常席で自由にお楽しみ下さい。申込先：mshin20@maecc.aichi-edu.ac.jp ※部分へ@を入れて下さい。代表者名とメールアドレスに加えて、演奏曲目、おおよその人数、おおよその演奏時間をお知らせください。
- 対象：卒業生・修了生、学部生・大学院生、興味のある方

⑮ 保健体育

令和8年度 愛知教育大学体育学会 講演会

- 開催場所：保健体育棟 多目的スタジオ(101)
- テーマ：「『モヤモヤ』から連帯する体育授業における男女共習
- ーこれまでを踏まえ、これからを考えるー」(講師：鹿児島国際大学 加藤凌先生)
- プログラム：14:30-14:35 講演会、質疑応答
- 14:35-15:35 ご講演
- 15:35-16:00 質疑応答
- 対象：希望者(本学卒業・修了は問わない)

⑯ 技術教育

愛知教育大学技術教育実践交流会

- 開催場所：第二共通棟 412室
- テーマ：技術教育の未来を共に考える
- プログラム：15:00-15:15 自己紹介
- 15:15-16:15 教員・教員経験者・行政などからの状況報告
- 16:15-17:15 大学生からの質問と総会討論
- 17:15-17:30 総括と次年度に向けての展望
- 開始時間までは「科学・ものづくりフェスタ」の「たのしいものづくり」ブースをご参観いただき、現役大学生への励ましをお願いいたします。
- 対象：本学在学生、本学卒業生、本学教員

⑰ 家政教育

家政教育講座 交流会

- 開催場所：美術・技術・家政棟 406室
- テーマ：「家族論の新展開から家庭科へ」山根真理名名誉教授
- プログラム：10:00-11:00 講師による講演
- 11:00-11:15 質疑応答
- 11:15-11:40 意見交換・交流会
- 対象：卒業生・修了生、在学生、教職員

※11/28(土)開催

◆下記URLもしくは二次元バーコード(QR)より、事前申込をお願いします。
URL : <https://forms.office.com/r/XvJs1njarG> (申込バッチ：10月30日(金))

※学びの交流会の一部教科を除く

問合先
総務課

TEL:0566-26-2115/2116

Mail: hcd@maecc.aichi-edu.ac.jp

HP: <https://www.aichi-edu.ac.jp/event/2026/11/14.html#014600>※開催内容等は現在の予定です。最新の情報及び開催状況は本学HPでご確認ください。
※オンライン同時開催の講座では、申込者にオンラインでの参加方法を事前にメールなどでお伝えします。

編集後記

ご多用の中、寄稿いただいた皆様に深く感謝いたします。

編集責任者 松井孝彦